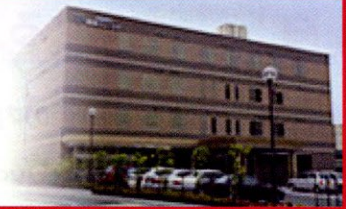


透析施設最前線 Vol.3

HOSPYグループ 鳴海クリニック



鳴海クリニック

所在地 : 名古屋市緑区浦里5-50
透析ベッド数: 100床
看護師数 : 25名
(透析療法指導看護師 11名)
患者数 : 166名



■ 鳴海クリニックの現在

鳴海クリニックは、HOSPYグループの透析サテライト施設として、1989年に名古屋市南部の通院患者さんを対象として開設された。現在地には2006年末に新築・増床して移転してきた。移転後、透析患者数が42%増と急激に増えたため、看護師を次々と新規採用して対応した。その結果、新人教育に忙殺されることになったが、その間も同クリニック看護部が、2003年以来独自に進めている学習会「看護を考える」を継続してきた。千葉看護師長は、人間関係だけは良いものにしておきたいため、「言いたいことは言いましょう」と説いてきたが、「今では、言い過ぎると思うこともあるぐらい風通しがよい」と苦笑する。



千葉志津子看護師長

■ 「看護を考える」学習会開始のきっかけ

鳴海クリニック看護部では、「看護を考える」学習会を開始する前から、千葉看護師長の呼びかけで有志が空き時間を見つけては集合し、看護の本質を見極めるため、科学的看護論の勉強会を開いていた。この勉強会は、不定期ではあったが数年間確実に継続されたため、参加者の間で看護の本質に対する考え方が培われてきたとのこと。この勉強会を発展させ、月に1回(現在は2ヶ月に1回)定期的で開催されるようになったのが「看護を考える」学習会である。この勉強会を通じ、学習会がクリニックの正式なものとなる数年前から、看護師の中に看護をしたいという姿勢ができていた点も、学習会の運営がスムーズにできた要因の1つとなっている。

■「看護を考える」学習会の内容

「看護を考える」学習会の内容は、実際に鳴海クリニックに通院している患者さんを事例として取り上げ、患者さんとの関わりにおいて、良かった点・良くなかった点を、看護理論に基づき根拠を明らかにしながら患者さんの全体像を見直そうというものである。このように紹介すると、読者は非常に固苦しい集まりであるという印象を受けられるだろうが、実際はグループワークを取り入れ、「良い看護ができたので報告します」、「うまく行かないので見てください」というように、ワイワイガヤガヤと明るい雰囲気で行われているのである。この背景には、参加者に「こんなことを言ったら恥をかくのでは」という意識より、良い看護をしたいという意識の方が強いことと、発言が否定されることがないため安心して意見を述べられる職場風土が形成されていることがある。「皆、とにかく学びたいという意欲が強く、積極的に発言します。このような職場環境は鳴海クリニックに特有のものだと思います」と早川幸子看護主任は語った。



早川幸子看護主任

さらに、自施設の患者さんを事例としていることも、学習会参加の動機づけとなっている。学習会で討論された患者さんへの対応は、事例となった患者さんの来院時にそのまま実践できるのである。そのため、休日であっても学習会だけに出席する目的でクリニックに来る看護師もいるという。また、たまたま欠席した看護師も、出席者から積極的に情報を得ようとするため、情報の共有化の配慮もほとんど必要がないほどであるという。



写真：学習会風景

なお、事例となった患者さんを看護の対象として見るという姿勢や、患者さんからネガティブな反応を受けた看護師を批判的に見るという雰囲気は、看護師の間に全く見受けられない。「失敗事例をあえて公表してくれた看護師にも、対象となった患者さんにも、『勉強の機会を与えてくれてありがとう』という感謝の気持ちでいます」と関川看護主任は語った。このため、事例検討の最後も「ありがとう」の言葉で締めくくられるのである。



関川美知看護主任

学習会は、少しでも患者さんが良い方向にむかってもらうため、自分たちは何をすべきかを考える良い機会になります」と早川知子看護主任は学習会の意義を語った。

学習会の運営には、畑看護師ら3人があたり、開催日の設定や事例提供者への通知、討論のための資料準備の依頼などを行っている。畑看護師は「せっかく『看護を考える』ことを学ぶ機会を与えられているので、これからも学びの努力を続けたい」と語った。



早川知子看護主任

千葉看護師長は、「学習会は、看護師1人ひとりが『看護とは?』を考えながら看護する楽

しさを少しずつ獲得し、自己成長を促す機会を提供しています。また、この学習会により変化した看護によって、患者さんの行動変容がみられたとき、本当の意味での看護が出来たと実感します」と学習会の持つ意義の大きさを強調した。



畑えみ子看護師

■ 患者さんの全体像モデルとプロセスレコードの活用

「看護を考える」学習会では、出席者それぞれが考える根拠とできるよう、当日欠席者を含め全員に、事例となった患者さんの「全体像モデル」の記入と提出を求めている。「全体像モデル」は患者さんの「ところ」、「社会関係」、「からだ」の3つの視点から、患者像を全体的に捉えることを目的に開発されたものである。さらに、以前は学習会で使用していたプロセスレコードは、新人看護師が増加した現在では基本的なことの学び直しを重点にしているため使用していないが、今後は復活させる方向にあるという。

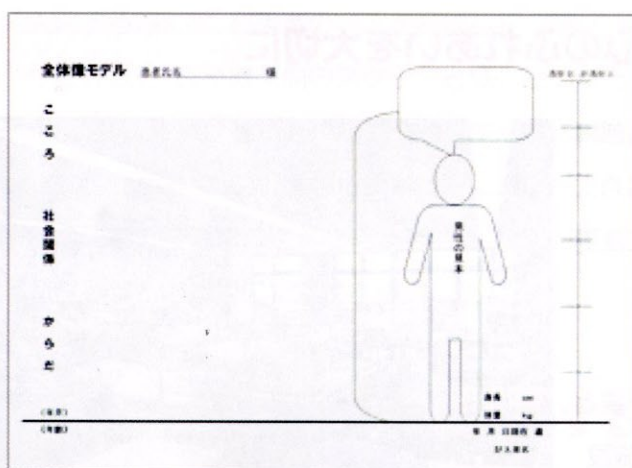


図1：看護科学研究学会使用の全体像モデル（改変）

図2：プロセスレコード

■ 各種委員会の活動

鳴海クリニック看護部には、安全対策委員会、感染防止対策委員会、学習委員会、患者サービス委員会があり、活発に活動している。例えば、安全対策委員会では、医療事故防止対策と、停電・水害・火災・地震・突発事故対策にあたる。ここに所属する看護師の1人は、愛知県看護協会の災害支援ナースに登録し、各種研修会に自主的に参加して知識を蓄積するとともに、情報を看護部全体で共有できるよう努力している。このように、何事も積極的に学習しようという、強い意識が職場風土として維持されていることが、鳴海クリニック看護部の強みであると感じられた。